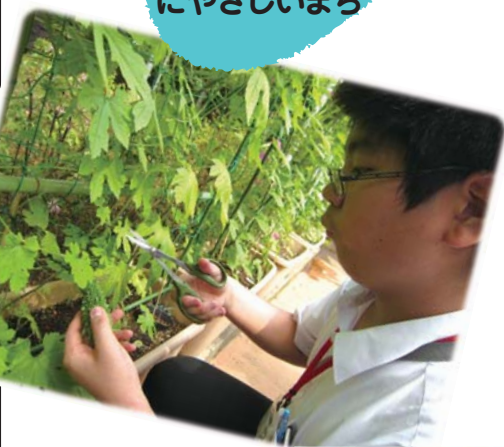


すみだ やさしいまち宣言

中学生アクションプラン
ワークショップ ● マガジン編集グループ

環境
にやさしいまち



中学生発行！
すみだ彩発見

マガジンやさしいまち



私たち中学生が、
まちに飛び出して
取材して
作りました！



地域
にやさしいまち

人
にやさしいまち



「すみだ やさしいまち宣言」中学生アクションプラン
ワークショップ ● ショートムービー編集グループ



ショートムービーもご覧ください

修学旅行で墨田探検



修学旅行で墨田にやって来た女子4人。その中の一人は元墨田に住んでいた人で幼なじみと一緒に墨田のいいところ、悪いところを見て、墨田の素晴らしさを知っていく物語です。

この作品には路地裏や商店街、公園などいろいろなところが映っています。自分の知っているところや知らないところ。知ってはいるけれど詳しいところまでは知らないところなど、いろいろなところがあります。

そういうところにも目を向けてこの作品を見てください。

TEAM A 折戸魁斗 (吾嬬第二中) 小林珠緒 (本所中)
石曾根巧 (文花中) 斎藤葉月 (本所中)
棚橋知樹 (文花中) 岩沢冴子 (墨田中)
中川美穂 (墨田中)

この物語は、不幸な少年スキマが、自ら行動してすみだを良くしていこうとする青春コメディです。

主人公のスキマはどんくさいけど何事にも一生懸命でドコか憎めない中学2年生。ペットのネコ“スイッチ”に相談したり、ヤンキーと××したりと、他の人にはできないことまでやってのけます。そんなスキマのお陰でわかる、すみだの良い所悪い所。良い事は続けない。悪い所は見直そう。そんなスキマの姿勢に感動、今世紀最大の青春コメディ！「出来ることから、コツコツとー」(by 毒舌ネコ) 乞うご期待！

TEAM B 大西由希子 (両国中) 高橋伶奈 (錦糸中)
武田萌花 (両国中) 三沢良美 (錦糸中)
安田翔哉 (錦糸中) 秋草慧一 (本所中) …友情出演

善緑少年 in SUMIDA



墨田夏物語



墨田区の中学校に転校してきた三宅は、おせっかいな同級生・加藤に連れられて墨田区を案内されます。下町の風情や人付き合い、墨田区の名所など見た三宅は、墨田区の良いところと悪いところを知ります。最初は墨田区に引っ越してきたことを不安に思っていた三宅くん。でも同級生、加藤・横尾・三浦や近所の人たちの優しさや思いやりを感じて、いつしか墨田区に転校してきて本当に良かったと思うように。向島と本所、あなたはどちらが好きですか？

TEAM C 加藤七海 (竪川中) 横尾洋平 (向島中)
三浦華恋 (竪川中) 谷口丈治 (向島中)
三宅浩史 (向島中)

環境 にやさしいまち

行動指針

- ① 環境について学習し、生活に活かそう。
- ② 電気・ガス・水を大切に使う、地球温暖化を防ごう。
- ③ 地域の緑を守り育てよう。
- ④ 雨水をたくわえ、活用しよう。
- ⑤ 「もったいない」の気持ちを心がけよう。

地域 にやさしいまち

行動指針

- ① 地域の安全と安心のため、防犯・防火につとめよう。
- ② たばこの吸い殻やごみのポイ捨てはやめよう。
- ③ ペットを飼うときは、マナーを守ろう。
- ④ 自転車を放置しない、させない。
- ⑤ 家族や地域の人達と一緒に、清掃活動や美化活動に参加しよう。

人 にやさしいまち

行動指針

- ① 大人も子どもも進んで「あいさつ」し、人と人とのふれあいを大切にしよう。
- ② 家庭、地域社会、学校の連携で、健全で心豊かな青少年を育てよう。
- ③ 地域の行事に参加しよう。
- ④ おとしよりや体の不自由な方などを思いやり、お手伝いしよう。
- ⑤ 誰にでも、おもてなしの心で接しよう。

私たちが考えた アクション

① 毎日「春」みたいな生活
昔の人の
知恵から学ぶ…14

② すぐに捨てないまち
環境にやさしい
3つの“R”……16

③ 緑を大切にする
ゴーヤを育てて
緑のフェスティバルを
開こう ……18

① マナーを守るまち
マナーを伝える
伝統工芸 ……10

② 歩行者が安心して
歩けるまち
「マナーを守る宣言」
をマークに……12

① 三世代の集まりの場づくり
みんなでワイワイ
おもてなし ……4

② 困っている人を助ける
もっと会話が
弾むまちに ……6

③ 人助けをする
あいさつをする
気持ちを込めて、
笑顔のあいさつから
……8

●ワークショップの流れ ……20
●取材で出会った方々

●編集後記 ……22

発行 2011年12月 墨田区区民活動推進課

中学生発！ すみだ彩発見

私たちの住む墨田区では、平成12年に「すみだ やさしいまち宣言」を行い、やさしさやおもいやりのあるまちづくりを目指し、みんなで活動しています。そのような活動の一環として、今年度は中学生の目線ですみだのまちを考える「中学生アクションプラン」づくりを行うことになりました。

まず、夏休みを利用して、区内の各中学校から数人ずつの中学生が集まりました、学校の垣根をこえて、私たちはすみだのまちについて意見を出し合い、まちに飛び出しました。まちや人々を知るためのまち探検や車いす体験。またマガジン作りに必要なアイデアを知るためのインタビュー。私たちはさまざまな体験を通して、こんなまちになったらいいと、新しいすみだを考えました。

そのように私たちが考えた新しいすみだをマガジンにまとめてみました。このマガジンをきっかけに、皆さんがすみだを歩いてみようかな、と思ってくれたらうれしいです。

すみだ やさしいまち宣言

人と地域と環境のために

わたしたち墨田区民は、
21世紀という新しい時代を迎えるにあたり、
「やさしさ」や「おもいやり」の心を大切にして、
人と地域と環境に対してやさしいまちをつくり、
未来の世代に引き継いでいくために、
次のとおり行動します。



人と人とのふれあいを大切にして、
お互いに支え合う
「人にやさしいまち」の実現に努めます。

まちをきれいにし、
他人への迷惑行為や犯罪をなくし、
すべての人が安心して暮らせる
「地域にやさしいまち」の実現に努めます。

環境に配慮し、
限りある資源を大切にする
「環境にやさしいまち」の実現に努めます。





私たちのアクション

目標 三世代の集まりの場づくり

みんなでワイワイ おもてなし

暑い暑い夏休みの終盤の8月29日に、「和菓子づくりだ！集合！」というイベントが行われました。地域のみんながいっしょに集まれる場が欲しい、そんな私たちの声から生まれたイベントです。

内容は、向島の「もんじゃお好み焼きとも」さんの鉄板で、「菓子遍路一哲」さんの指導のもと、どら焼きならぬ「ドラえもんじゃ焼き」や、季節の和菓子づくりに挑戦するというものです。

当日は、地元の町会の方、小学生の皆さんなど20名ほどが集まりました。「地域にみんながいっしょに集まれる場を設ける」ということはとても難しいことです。しかし、「和菓子」など、食べ物関係のことにすると、みんなの注目が集まります。実際に、今回の和菓子教室では、「もんじゃお好み焼きとも」さんのお店の中でワイワイ盛り上がりま

した。今回の和菓子教室は規模が小さいですが、これも「やさしいまち」を進めるための第一歩になったと思います。

やさしいまち・インタビュー



本田のり子さん(もんじゃ お好み焼きとも)

「ありがとう」の気持ちを 笑顔と言葉で伝えます

お店を会場に使わせていただいた本田さんは、「一期一会」を大切に店を開いているそうです。つまり、出会う人は一生に一度限りであること。また、下町は道がせまいので、道をゆずってもらうことがあります。ゆずってもらったら「ありがとうございます」。ここから知らない人同士でのコミュニケーションが始まるといいます。ともさんのおもてなしは来てくれてありがとうという「感謝の気持ち」を笑顔や言葉で伝えることだそうです。



中学生が おもてなしに挑戦！ コラム



商品化された「スカイツリークリップ」

スカイツリーお土産コンテストでアイディア賞を受賞された立花中学校三年生の、佐伯さん、佃さん、三澤さんにインタビューしました。

三人が考えたお土産は、長さ約4センチのプラスチック製のクリップです。ピンク、白、紫、緑、青の5色セットです。誰もが使いたくなる楽しそうなこのクリップは、どのように誕生したのでしょうか。

コンテストに参加するのは美術部の生徒が多いそうですが、立花中学校では一般の生徒がボランティアで参加したそうです。最初考えたのは普通のクリップをスカイツリー型にしたクリップでした。その後、発表会や業者さんとの話し合いを経て、プラスチック製のクリップが生まれました。

みんなが使える、みんなが買える、そんなやさしい視点で作られた「スカイツリークリップ」ぜひ実物を手にとってみてください。



やさしいまち・インタビュー

作って、見て、食べて…。 季節を感じてもらえれば



和菓子づくりを教えていただいた酒井哲治さん(菓子遍路一哲)

和菓づくりのイベントでは、どら焼きと季節の和菓子づくりに挑戦しました。どちらも初めての経験でしたが、季節の和菓子づくりでは、お菓子にこめられた意味を一哲さんから教えていただきました。

それは、和菓子は少し先の季節の物を作るということです。私たちは練切製の「ききょう」と「芋きんとん」を作りました。ききょうは秋の七草の一つ、芋は秋の代表的な食べ物です。イベントの当日は暑い日でしたが、それらのお菓子から、さわやかな秋を感じることができました。

これから来る季節を知らせてあげる、これも大切なおもてなしだと思います。



酒井さんの手からはマジックのように、和菓子が生まれます。



もんじゃの鉄板を使ってどら焼き＝「ドラえもんじゃ焼き」を焼きました。



お菓子作りは大好きよ！

うわー、じょうずですね。



楽しみ与える 高齢者の居場所づくり

引きこもりがちな高齢者の方に、家の中から外に出てきて友達をつくってもらうために作られました。名前の由来は、福島県や栃木県で「よらっしょ」とはよってらっしゃいという意味です。漢字の「与楽所」にこめられている意味は「楽しみを与える場所」だそうです。

活動内容は、偶数日には絵手紙を書き、月に一度俳句会を行っているそうです。でも普段は女の人ばかりなので、人形作りや手遊び等で遊んで楽しんでいるそうです。



藤井俊雄さん（ミニデイサービス与楽所）

助け合いのしくみを PR して欲しい

社会福祉協議会には、高齢者や障害者を支えるしくみがいくつもあります。「ハートライン21」という会員登録をして、家事を手伝ってあげるサービスや、「ミニサポートサービス」という会員登録なしで、30分以内のちょっとしたお手伝いができるサービスもあります。そして、「ファミリーサポート」という子どもを預かったり、保育園に送り迎えをするサービスもあります。

「たくさんの人に登録してもらえるように、みんなでPRをして欲しい」と、大野さんは言います。



大野朋子さん（墨田区社会福祉協議会）

取材をして「人にやさしいまち」にするために、人と人が今よりももっとたくさんのお話をするといいことが大切だなと思いました。皆さん「近所の人が声をかけてくれる事が嬉しい！」と言っていました。誰でも声をかけられたら嬉しいと思います。だから、声をかけあって相手の事を知って思いやってみよう。これを広めていけば、自然とやさしいまちが作られていくんじゃないかと考えました。



すてきなまち

私たちのアクション

もつと会話が 弾むまちに

目標 困っている人を助ける



人にやさしいまちをつくるには、困っている人を助けたいといけなとを考えました。そして、思っていたのは高齢者の方々です。まず、その高齢者の方々とよく知るために「ミニデイサービス与楽所」取材しました。

高齢者の方々と話を聞いて、印象に残った言葉、考えさせられた話は「すみだには温かみがあって下町らしさがあるけど、ビルが多いのはちょっとやだな」という内容です。「確かに今は色々なものが便利になったけど、小さいころの駄菓子屋が懐かしく思っていて、前にあったと

お隣どうし気軽に声をかけられる下町らしいところが好き



すみだのいいところは、どんなところですか？

区役所の人もがんばってくれて、助かっていますよ

最近のは高いビルが増えてきたねえ



誕生会に、飛び入り参加しました。

得意のハーモニカで、ハッピーバースデー



プレゼントの レターケースを 作りました



今回、お宅訪問の際にお土産として作ったレターケースは革製品のお店、アトリエ・アミーチさんで作らせてもらいました。材料の革は、なんと捨ててしまうはずだった革の廃材です。デザインと作り方を教えてくださったのは羽生ゆかりさんです。革をなめらかにしたり、模様の打ち方を教えてくださったのは片野一恵さんでした。

作っていて大変だった所は見本通りにひもを通す穴をあけることで、デザインを考えることに一番時間がかかりました。けれどとても楽しかったです。そして良い作品ができ、訪問に行ったときにお土産をととても喜んでもらったので嬉しかったです。片野さん、羽生さん、本当にありがとうございました。



いろいろな模様の型があります。

デザインを考えるのが楽しい時間です。



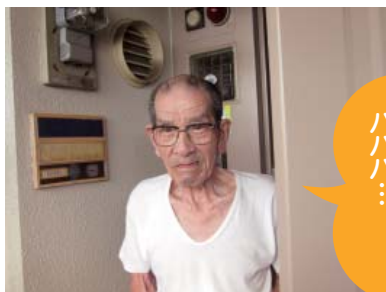
コミュニケーションのためにと、レターケースの作り方を教えていただいた片野一恵さん(写真中央)と、羽生ゆかりさん(写真左)。

人と交流するのが
若さを保つ
秘けつね。



山田さん。自治会の活動にも積極的に参加しているそうです。

長生きするのは
初めてだから
秘けつは
分からないよ。
ハハハ...



戦争中の経験を話してくれた馬場さん。

ペランダから
スカイツリーの
写真は、ずっと
撮っているよ。



たくさんのきれいな写真を見せてくれた中田さん。



やさしいまち・インタビュー

日ごろのあいさつが とっても大切です

私たちと一緒に高齢者のお宅を訪問していただいた、笑顔がやさしい井上久子さん。一人暮らしの高齢者が家に閉じこもったきりにならないための活動をしています。コミュニケーションの第一歩は、「まず日ごろからのあいさつが大切」だそうです。



井上久子さん(堤通二丁目3・4ふれあい福祉委員会委員長)

宮沢賢治が
大好き♡
詩が元氣のもとね。



人にやさしいまち
3

私たちのアクション

気持ちを含めて、 笑顔のあいさつから

目標

人助けをする／あいさつをする

私たちが作った
レターケース。
使ってください。



布川さんは、着物の生地で作った、手づくりのブラウスを見せてくれました。

オシャレを
することが
若さの
秘けつよ。



現代の若者は、高齢者に対して親切でない、冷たい傾向にあると思います。近所に住んでいる人が誰なのか、名前すら知らない状況です。それを知らないため、あいさつをしても返事が返ってこない...ということになるのです。私たち自身も、家族・友達以外の人と人との交流が薄いのではないかと考えました。そこで私たちは、人と人との交流を深めるため、高齢者の方が住むお宅に、実際に取材に行き、お話しすることになりました。という事で白鬚団地に住んでいる6人のお宅に行きました。

高齢者の方々は私たちに警戒することもなく迎え入れてくれます。皆さん、初見のはずの私達に笑いながらいろいろ話してくれました。そのなかでも「人と交流するのが若々しい秘訣」という言葉が印象的でした。良い経験ができました。お話しできて良かったです。



押絵羽子板

羽子板の鴻月 西山和宏さん

羽子板の一つひとつに心をこめて

西山和宏さんは、「心が豊かでないと、いい羽子板はできない」と言っていました。

羽子板は病気無く育つという願いをこめて、子どもの初正月を祝う物なのだそうです。西山さんの羽子板を手にした人々からお礼と感謝の言葉が届いて、とても温かい気持ちになりました。

お店にある羽子板を見ると、どれもキレイで、細かいところまでよくできているなと思いました。作る量は、1カ月で約20枚。特に忙しいのは年末だそうです。

これからも、羽子板作りがんばってください。

一つひとつの基本がしっかりできないと、いい羽子板はできません。



一つの羽子板は、たくさん作っています。



世界にひとつだけの人形を作っています

塚田さんの作っている江戸木目込人形は、ひな人形が多く、残木に切れ目を入れて、着物をつけたりして、とてもすごい技です。着物は、江戸時代、明治時代のものを使っています。理由は、昔の着物のほうが、色がやさしく、糸が細かいからだそうです。「一個一個、色や着物の柄が違うので、世界にひとつだけの人形になる」と聞いて、とても魅力を感じました。

塚田さんは、「伝統工芸は続けるのが難しい」と言っていました。跡を継ぐ人がいなかったり、いたとしても職人になるのに時間がかかったりするからです。

伝統工芸には、いい物、昔ながらの温かい物などがあるので、終わらないで、続けてほしいと思いました。

江戸木目込人形

塚田工房 塚田進さん



かわいい人形がたくさんあって、欲しくなっちゃいます。

江戸・明治時代の着物の布は、色が細かくて繊細です。



地域にやさしいまち

私たちのアクション

マナーを伝える 伝統工芸

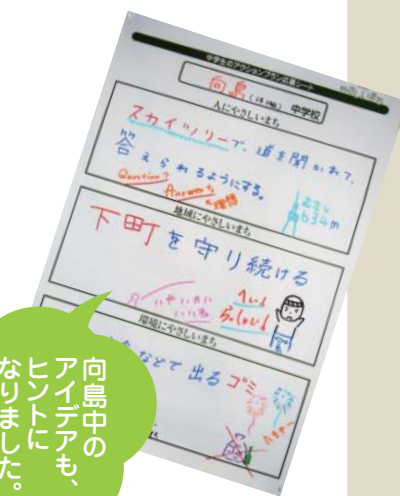
目標 マナーを守るまち

私たちは、伝統工芸の魅力を墨田区を訪れる人たちや、次の世代の人たちに伝えたいと思いました。理由は、伝統工芸には、古くから伝わる、知識・技・温かい何かが伝わっているの、今の私たちに何かを教えてくれるのではないかと感じました。

私たちは「マナーを守るまち」について調べよう、ということになって、どういうふうにしてマナーについて調べようかと迷っていて、考えたのが伝統工芸でした。伝統工芸で伝えられる事は、技だけじゃなくてマナーなども伝わっているのではないかと考えたからです。

二人の職人さんにマナーについて聞いてみると、二人とも「おもてなし」という言葉が出てきました。おもてなしとは何か、を考えて書いた4コママンガと伝統工芸の魅力と大変さについてまとめました。

向島中のアイデアも、ヒントになりました。



おもひなしの心を



2012年



マナーも伝統工芸も次につけていくことが大切だね。

職人としての修行は、まずマナーを身につけることでした。



放置自転車は
やめて!

クイズ

Q1 区内で放置自転車の数がいちばん多い地域はどこ?

- [A] 両国駅周辺
- [B] 錦糸町駅周辺
- [C] 曳舟駅周辺

Q2 1年間に撤去している放置自転車の数は何台?

- [A] 約 5,000 台
- [B] 約 10,000 台
- [C] 約 15,000 台

Q3 撤去された自転車を引き取る返還料はいくら?

- [A] 2,000 円
- [B] 3,000 円
- [C] 5,000 円

Q4 返還される台数と処分される台数の比率は?

- [A] 3:7
- [B] 5:5
- [C] 6:4

Q5 撤去自転車のうちリサイクルされる自転車の数は?

- [A] 約 60 台
- [B] 約 600 台
- [C] 約 6,000 台

Q6 錦糸町駅前地下駐輪場の1日の駐輪料金はいくら?

- [A] 50 円
- [B] 100 円
- [C] 200 円

【こたえ】

Q1 [B] 錦糸町駅周辺

禁止区域に指定されて、最近は数が減ってきています。



Q2 [C] 約 15,000 台

なんと、すごい数の放置自転車です。



Q3 [A] 2,000 円

自転車のマナー向上のための費用に使われます。



Q4 [C] 6:4

6,000 台の自転車が、処分されてしまいます。もったいない～。



Q5 [A] 約 60 台

処分するにはもったいない自転車は、リサイクルされます。



Q6 [A] 50 円

1日たったの 50 円。駐輪場を利用しましょう。



地域

にやさしいまち

2

私たちのアクション

「マナーを守る宣言」をマークに

目標

歩行者が安心して歩けるまち

このごろ歩道を歩いていると、自転車で二人乗りをする人や横に並んで話しながらこいでいる人、傘をさしてこいでいる人を、よく見かけます。広い道ならまだしも細い道でそんなことがあると、歩く人にとってとても迷惑です。

そこで、私たちはルールを守る人を増やしたい。そんな思いでマナーマークを作ってみました。私たちの墨田区全体をやさしいまちにしたいという思いです。このマークには、ルールやマナーを守って欲しい、歩行者を優先に、思いやりを持って欲しいという意味を込めて「ルール・マナーを守る宣言」という言葉をつけました。このマークがすみなじゅうに広がると思います。



墨田区の土木管理課の小林さん(右)と吉村さん(左)に自転車マナーの現状取材しました。



ルールやマナーを守るマークのアイデア。

これをシールにして自転車のかごに貼る人が増えれば、みんなが自然にルールやマナーが守れるようになるという思いで考えました。

他にもいろいろなアイデアを考えました。



昔の人の 知恵から学ぶ

昔の人の
知恵に学ぶ
エコライフ

暑い夏を 涼しく過ごす ヒント集

● 水で冷やす

昔の人はスイカや果物を、井戸水で冷やしていました。ちなみに川の水は、流れの速い真ん中の方が冷たいそうです。

● こわい話で涼む

こわいお化け屋敷や、ぞくぞくするような怪談話を聞けば、自然と体も涼しくなるかも。

● 日陰で涼む

木陰に入れば、日なたに比べて2〜3度は涼しいそうです。お寺の軒下も日射しが避けられます。



冷たくて
おいしーよ。



● 雨水を使って打ち水

雨水を溜めておいて打ち水に使えば、かなりエコ。朝夕の時間帯が効果的だそうです。

● 音で涼む

風鈴の音は昔の人の知恵。コオロギやスズムシの声も何となく涼しさを感じます。

● 汗をかく

体を動かして汗をかけば、涼しくなります。エアコンにばかり頼っていると汗がなくなるそうです。



チリン
チリン



● すだれをかける

太陽の熱い日射しが遮られるうえに、風が通って涼しい。あしずと呼ぶように、すだれと呼ぶのは、げん担ぎからだそうです。

● 扇子や団扇であおぐ

今のプラスチック製の団扇より、昔の竹で作った団扇の方が、しなやかで涼しいそうです。

● 金魚鉢を置く

涼しそうな物や、涼しそうな風景を楽しむのも、昔の人の知恵です。



水の中は
涼しいよ

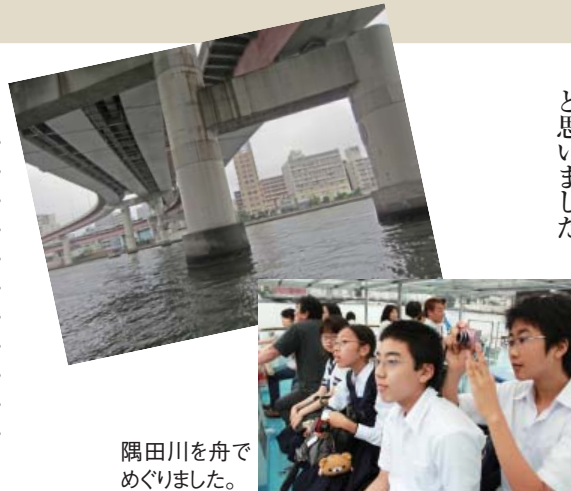


川の風が通って、意外に涼しい桟敷

両国橋のそばの堤防に造られた桟敷で、隅田川の歴史や昔の人の知恵を教えてくださいました。先生は、佐原滋元さん(すみだ学習ガーデン理事長)と植野勸さん((株)CDI代表取締役)。夏を涼しく過ごすコツのほかに、ものを大事にした昔の人の暮らしを学びました。



コラム 隅田川の 歴史の話を 聞きました



隅田川を舟でめぐりました。

今年の夏も毎日毎日暑い日が続きっぱなしで嫌になります。そして3月11日の東日本大震災で節電を心掛けるようになりました。そこで、暑さをしのぐよい方法はないかと昔の人の知恵を学びに行きました。

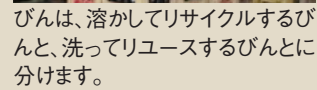
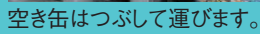
昔の人は冬に降る雪を溜めておいて夏に使ったり、日射しを避けるために木陰に入ったり、すだれやよしずをかけたたり、自然の力を使って、工夫してしのいでいたそうです。隅田川の真ん中の水は、意外と冷たくてきれいでその水を買ったりもしていたそうです。また涼しそうな音を聞いたり、怖い話を聞いて涼しい気持ちになったりしていました。

このことを聞いて、昔の人は頭を使って夏を過ごしていたんだなあと思いました。私達も昔の人を見習って、工夫して夏を過ごしていきたいと思いました。

「3つのR」というのを知っていますか？ 「リデュース」「リユース」「リサイクル」この3つの頭文字のRとを取って、「3つのR」です。でも皆さんは3つの中にも、良し悪しがあるのを知っていますか？

では、一番いいリデュースとは、何なのでしょうか。リデュースとはごみそのものを減らして資源を大切にすることです。

で買う人が多くなりビンで買う人が少なくなってきました。本当はリサイクルをしなくてすむ買い方をしたほうがいいのかもしれません。



私たちのアクション

Reduce

Reuse

Recycle

環境にやさしい
3つのR

目標
▼
すぐに捨てないまち

A photograph showing a male teacher sitting at a long table, gesturing while talking to a group of students. The students, wearing school uniforms, are seated around the table, looking at books or papers. The setting appears to be a classroom or a library.



リサイクル品
とてもエコ
を大切にす。

あき缶の
リサイクル

私たちのアクション

目標▼ 緑を大切にする

ゴーヤを育てて 緑のフェスティバルを 開こう

墨田区にも
こんなに
緑はある！

家庭菜園も
やりよつに
よつては、
このように
美しくなります。

緑と花の
学習園では、
きれいな花や
ブドウまで
見られます。

野菜を
育てれば
収穫も
楽しいな。

ゴーヤは
比較的
育てやすい
ですよ。

緑と花のサポーター依田榮久さん。

環境保全課の福嶋さんから、墨田区の緑についての施策の話を聞きました。

近年、地球規模で緑が少なくなっている問題が騒がれています。そうした世界に共通した課題をニュースなどで目にしたことがない人はいないでしょう。そうした問題を解決するために様々な策を打ち出していますが、いまだ目立った効果は出ていません。

そのような状況を見て、具体案を考えようと、私たちは「緑と花の学習園」に行きました。緑と花のサポーターの依田さんに尋ねたところ、「ゴーヤは誰でも育てやすい」というお話を聞いて、各家庭にできるだけ家庭菜園を広めたいと考えました。とくに、ゴーヤを中心とした菜園を推し進めたいです。ゴーヤは前述の通り簡単に育てられるし、窓辺に育てればグリーンカーテンとしても利用できます。そうすればエアコンの設定温度も高く設定しても大丈夫です。

また、これを利用してすみだの各地域で「みどりフェスティバル」なるものを開催したいです。これは自分で育てた野菜などを持ち寄り、自慢したり、大きさを競い、優勝を決めるコンテストです。そうすれば、地域の活性化にもつながるし、温暖化防止にも少し役立ちます。もしそれが成功すれば、すみだはクリーン

コラム 雨水利用が 分かる 環境ふれあい館

環境ふれあい館では、ゴーヤのグリーンカーテンを、溜めた雨水で育てています。緑が増えて、夏涼しくて、収穫が楽しくて、しかも雨水利用。ゴーヤは一石四鳥です。

グリーンカーテン。見ていただけで涼しくなります。

9月23日(金)
まとめ

取材した材料を持ち寄ってみんなで原稿づくり。見開きごとに写真を選んで、文章をまとめ、イラストを描きました。



8月11日(木)〜9月4日(金)
取材

3つのチームに分かれて、それぞれ企画・構成に沿って取材。話を聞く人、記録する人、写真を撮る人と、3つの役割を分担します。暑さに耐えながら、なんとか取材を終えました。



7月29・30日(金・土)
企画構成を考える

チームに分かれてアクションプランを考えます。マガジンの見開きごとに、構成案や見せ方のアイデア、取材先を決めました。



全中学校で考えたアクションプランから、ヒントを探します。



ページごとに企画や構成を考えて、取材先の候補を絞ります。

7月28日(木)
ディスカッション

グループ作業。「最悪の学校」を「最高の学校」にするアイデアを出し合いました。ユニークなアイデアが生まれます。



「最悪の学校」は次から次へと、いっぱい思いつきます。さて解決策は?



最高の学校のために、「先生はどうすればやさしくなるの?」は、難しい課題です。

7月27日(水)
まちに出かけて調べる②

26日に続き、2つのグループごとに、ものづくりのまちすみだの工場を見学をしたり、まちの人から話を聞いたりしました。



きれいな水滴の反響音が聞こえる「路地琴」。路地探検には発見がいっぱい。



町工場を見学しました。最新の工作機械で、世界に誇る部品を作っています。

7月26日(火)
まちに出かけて調べる①

2つのグループに分かれて、いつもと違う視点でまちを体験したり、まちの人から話を聞きながら、まちを探検しました。



アイマスクを付けて白杖で歩く体験。サポートしてくれる人の声だけが頼りです。



まちの人の案内で、向島の路地をくまなく探検しました。

7月25日(月)
オリエンテーション

区内各中学校から、ワークショップに参加したみんなが、お互いを知るためのオリエンテーション。頭や体を使ってゲームをしました。



他己紹介。似顔絵は一筆で描くので変顔になってしまいました。



写真を選んでストーリーをつくるデザインゲーム。おもしろい作品も飛び出してみました。



吉田豊さん((有)吉田容器店代表取締役)



西川由哲先生(立花中)



立花中学校三年生の、佐伯実紀さん(左)、佃沙樹さん(右から2番目)、三澤秋緒(右)さん



酒井哲治さん(菓子遍路一哲)(写真中央)



本田のり子さん(もんじゃお好み焼き とも)



依田榮久さん(緑と花のサポーター)



植野勸さん((株)CDI代表取締役)



アトリエ・アミーチの片野一恵さん(写真中央)と、羽生ゆかりさん(写真左)



藤井俊雄さん(ミニデイサービス与楽所)



大野朋子さん(墨田区社会福祉協議会職員)



ミニデイサービス与楽所の皆さん



西山和宏さん(羽子板の鴻月)



塚田進さん(江戸木目込人形塚田工房)



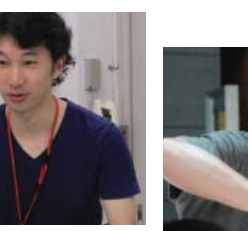
藤林豊典さん((株)浜野製作所)



木村吉見さん(アーツペースyahiro8)



小川昭さん(墨田区ボランティアサークル連絡会会長)



三田大介さん(配財プロジェクト)



岩井光恵さん(配財プロジェクト)



前田恵久さん(3sunネット墨田支部)



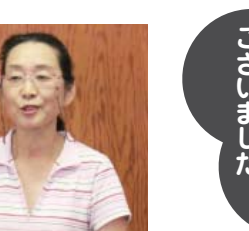
斉藤靖之さん(配財プロジェクト)



阿部洋一さん(一寺言問を防災のまちにする会)



佐野善隆さん(墨田区広報聴聞担当)



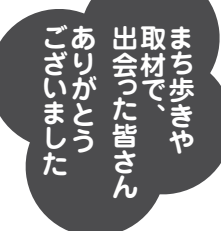
高原純子さん(一寺言問を防災のまちにする会)



佐原滋元さん(すみだ学習ガーデン理事長)



車椅子、アイマスク体験ガイドの皆さん



井上久子さん(堤通二丁目3・4ふれあい福祉委員会委員長)



井上久子さん(堤通二丁目3・4ふれあい福祉委員会委員長)



車椅子、アイマスク体験ガイドの皆さん

このワークショップに参加してみて、今まで墨田区のことについてあまり知らなかったの、改めて墨田区のことを知ることができました。取材などを通して、地域の方々とも触れあうことができたので良かったです。これからはこの経験を活かしていきたいです。

平野加菜 (鐘淵中)



まち探検 インタビュー、カワセミ乗船、いろいろな体験をしました。和菓子作りが一番印象に残っています。ふだん、何気なく食べているどら焼きを作るのが、あれほど難しかったことは！

西村健志 (向島中)



僕は、この町にあまりまに、ごく普通に住んでいますが、「すみだやさしいまち宣言」に取り組んだことにより、改めてこの町(墨田区)について関心・意欲が持てるようになりました。又、スカイツリーがこの町にあるということに改めて実感することが出来ました。そして、他の中学校の人と交流できたことがとても嬉しかったです。

藤原孝太 (寺島中)



まち探検、インタビュー、この「すみだやさしいまち宣言」に入って、とてもこの町が好きになりました。スカイツリーのある町でもあり、人がやさしい町でもあるこの町は、まだ少しマナーが悪い人たちもいるけれど、少しずつきれいになっていけば、この町はさらによくなっていきます！

淡谷聖 (寺島中)



自分は友達もやるということとで先生から薦められたのがきっかけでした。しかし、このアクションプランを行ううちに、話す友達もでき、自分の中では、結果的にはとてもいい経験になったと思います。アクションプランをすることができて良かったです。

内海文弥 (本所中)



私はワークショップをやった、最初は毎日あったりして大変だな・と思っていました。でも、このワークショップは、人とふれあえる機会も多く、新しい友達もできました。これを機に、墨田区がもっと良い町になるといいです。

三上温 (鐘淵中)

約半年? 間(半月間)、とても貴重でも楽しい時間を過ごすことができました。そして自分の住む墨田区を大切にしようという思いが強くなりました。墨田区内の学校のみならず仲よくなれたり墨田区のことをたくさん知れて嬉しかったです。こんな体験はめったにないのでとても心に残る深い思い出だと思います。また機会があったらぜひ参加したいです。これから墨田区を思い、墨田区のためになることを全力で行いたいと思います。皆さんありがとうございます。

杉原花恋 (墨田中)

私はこの体験を通して、様々な仲間と出会いました。またマガジンチームに所属したことにより、文章を書くことが少しだけ(?)上手くなりました。取材を通して、地域のひとふれあい、これも貴重な体験だと思っています。自分を支えてくれた方々、ありがとうございました。

秋草慧一 (本所中)



今年の夏はとても暑くたいへんでしたが、その中でも取材先の方々は、熱心にすみだの良いところを教えてくださいました。昔の伝統を残し、今に伝えていくという活動は、すみだの良さと言えらと思います。私もすみだの貴重な伝統などを継承し、残していきたいです。

川名佑佳 (墨田中)



「やさしいまちWSマガジン」では、まちのやさしいところを知るために探検したり、取材で初めて会う方々から、いろいろなことを教えてもらいました。また、他中の知らない子とも仲良くなり、協力できました。とても楽しかったです。

刀根愛実 (吾嬬第二中)



僕は、このワークショップに参加して嬉しかった事は、他の学校の友達と会えた事です。最初は緊張したけれど、今ではみんなで協力して、雑誌作りに取り組むことが出来るようになりました。ありがとうございました。

小笠桂吾 (文花中)



私はこのワークショップをやってみて、他中の子といっしょにどこかに行ったり、ものを作ることができて楽しかったし、嬉しかったです。そのうえ、他中の友だちもできました。少し作業がたいへんでしたが、区役所の方々も優しくしてくださり、この仕事をして良かったと思います。

松土綾香 (吾嬬第二中)

まち探検やインタビューなど、このワークショップをやった、この行事がとても地域に役立つことなんだと思います。さらに墨田区には、スカイツリーがあるので、そのためには、墨田区をきれいなまちにしていけたらと思います。

大室達利 (文花中)

